

『FLEAI マーケット～モッタイナイを考える～』

ボランティア 地域交流

〔代表者〕人文学部 4年 向後 春輝

連携先

・(有)森田屋縫製(茨城県指定 障害者就労継続支援事業者)〔SATURN project by 森田屋〕・常磐大学・地域情報誌メディア・近隣店舗
(・水戸市内の小学校 ・水戸市内の高校 ・水戸市内の保育園幼稚園)一來場客として

顧問教員

後 藤 玲 子 (人文学部 准教授)

参加者

向 後 春 輝 (人文学部 4年)
為 我 井 敏 弘 (人文学部 4年)
岩 崎 祐 子 (人文学部 4年)
富 塚 千 鶴 (人文学部 4年)
玉 手 宏 太 郎 (人文学部 4年)
山 下 雅 矢 (人文学部 4年)
大 木 愛 (人文学部 4年)
前 野 泰 那 (人文学部 4年)
渡 部 香 織 (人文学部 4年)
鳴 島 和 希 (人文学部 3年)
小 松 万 純 (人文学部 3年)
小 坪 久 美 子 (人文学部 3年)
黄 磊 (人文学部 3年)
近 藤 彩 夏 (人文学部 3年)
佐 藤 奈 菜 (人文学部 3年)
佐 川 美 樹 (人文学部 3年)
庄 子 未 来 (人文学部 3年)
古 西 立 志 (人文学部 3年)
緑 川 郁 夫 (人文学部 3年)

プロジェクトの申請内容

(1)プロジェクトの概要

昨年に続きの申請になるが、このプロジェクトは、茨城大学水戸キャンパスにて、ワークショップを伴う大規模フリーマーケットを開催することで、さまざまな人々の FLEAI(ふれあい)や、エコ意識の向上を実現する企画である。昨年は初年度ながら600人以上の来場客を記録することができ、今回は1000人規模のイベントへの拡大を目標とする。

出店者及び来場客としては、本校大学生はもちろん、今年度は近隣の常磐大学にも何らかの形で参画していただく予定だ。また、昨年同様、(有)森田屋縫製様の協力のもと、廃棄されるはずのはぎれ布を、エコバッグに変身させるワークショップを、来場者と一緒に体験する。

昨年はエコバッグ作りワークショップへの参加を目的とし、親子連れの参加者が目立った。(開場前にも関わらず来場して下さるお客様が多数いた。

さらに、当日売れ残った商品は「モッタイナイ STATION」にて一部回収し、リサイクルショップ等で換金後、募金をする。(昨年は茨城新聞を介し水戸市福祉協議会等へ4万円の寄付を達成)

参加者は、フリーマーケットによって「自分がいらなくなったものが、誰かに喜んで使ってもらえる」ことに気付き、ワークショップによって「廃棄物さえも、魅力的な

グッズに生まれかわる」ことを知る。

イベントを後にする際、参加者が自分なりに『モッタイナイ』について考えられるような一日をプロデュースする企画である。

(2)連携の方法・内容

■昨年引き続き、茨城県指定障害者就労継続支援事業者である(有)森田屋縫製様のプロジェクト：

『SATURN project by 森田屋』とコラボレーションし、大学内にて出張ワークショップを開催していただく。当日の来場者(小学生・大学生・地域住民)には、「廃棄されるはずのはぎれ布が、エコバッグとして生まれ変わる」という感動を自らの手で体験してもらい、本プロジェクトのコンセプトである “モッタイナイを考える” 機会とする。森田屋縫製様からは講師の派遣・ワークショップの材料提供等の支援を頂く。

■近隣小学校に訪問し、活動内容を説明する。小学生及び親御様に、ワークショップ来場客としてイベントに参加して頂けるよう、広報活動(参加者募集)に関する協力を依頼する。

■近隣中学校・高校に訪問しイベントの告知をする。フリーマーケットの来場客としてはもちろん、もうひとつのオープンキャンパスのような感覚で大学の雰囲気を感じてもらうことを目標とする。

(3)実施計画

■6月～8月：

- ・イベント規模に合わせ、運営組織となる実行委員会を立ち上げる。
- ・森田屋縫製様との企画会議を重ね、ワークショップの詳細を決定する。

■9月～10月：

- ・近隣小・中・高校に訪問し、活動内容を説明する。広報活動に関する協力を依頼する。
- ・茨城大学生への広報活動(参加者募集)
- ・常磐大学生への広報活動(参加者募集)

■10月下旬 or11月上旬：

⇒プロジェクト 『第2回 FLEAI マーケット～モッタイナイを考える～』 開催予定場所は茨城大学水戸キャンパスを希望する。

(4)期待される成果

茨城大学の問題点として、1年に一度の学園祭の開催を除くと学生発信の大規模イベントが存在しないことが挙げられる。また、学園祭の中心は1・2年生などの低学年であることが多いし、サークル無所属の学生にとっては出店者として参加することが出来ないという思いを抱いていた。茨城大学生に対しては、キャンパス内で本フリーマーケットが開催されることにより、学年・学部・所属サークルの枠組みを超えた幅広い学生間交流が実現する。また、当日は小学生・地域住民との交流機会や、近隣ながらなかなか直接的な交流のない常磐大学学生との交流もあるため、普段なかなか接することのない人々とのコミュニケーションを通じ、多様な価値観に触れられる一日ともなる。

また、参加者には『SATURN project by 森田屋』とのワークショップを体験してもらうことで、本プロジェクトのコンセプトである “モッタイナイを考える” 機会してもらい、近年叫ばれるエコ意識の向上

のきっかけにしていきたい。

そして何より、こうした学生発信のイベントの存在を本校学生が認知することによって、後輩である彼らの学外活動への興味関心・残りの学生生活のモチベーションの向上につながれば幸いである。

プロジェクトの実施概要

茨城大学水戸キャンパスにて、3つのワークショップを伴う大規模フリーマーケットを開催することで、普段関わることのない様々な人とのFLEAI（ふれあい）や、エコ意識の向上を実現する企画である。

フリーマーケットでは、大学生が出店者となり来場者としての地域住民と交流を楽しみ、時間を共有する。また、学内で開催されることで、学年・学部・所属サークルの枠組みを超えた幅広い学生間交流が実現されるのである。このように大学としての地域を盛り上げていくという役割を果たすとともに茨城大学自体を活気づけるイベントである。

そして、エコバッグづくりを初めとするペットボトルのキャップを用いたエコモザイクアートや洗剤いらずのアクリルタワシづくり等のワークショップは、本プロジェクトのコンセプトでもある、“モッタイナイを考える”機会を提供し、実際に体験してもらうことで、楽しみながら近年叫ばれているエコ意識の向上を図るものである。

プロジェクトの成果報告

11/7(日)茨城大学水戸キャンパスにて『FLEAI マーケット～エコ祭 2010～』を開

催。

このイベントは、「大学生フリーマーケット」と「SATURN project by 森田屋によるエコバッグ作り」、「ペットボトルキャップで描くエコモザイクアート」、「洗剤いらずで洗い物ができるアクリルタワシ作り」の4つの企画で構成されている。

成果は以下の4点である。

■地域住民との交流

当日は、地域住民を中心に1000人以上の方々が来場して下さり、とても賑やかなものとなった。来場者は、幼稚園児からお年寄りまで幅広い層の方が見え、開場1時間前から来て下さったお客様もいたほどである。

その中でも、特にお年寄りや親子連れの方の来場が目立った。「孫と話しているみたいでとても楽しかった。こんなに買ったよ。」と笑顔で帰っていくお年寄りや、大きな買い物袋を持って歩いているお客様も多くいたことにとても驚いた。さらに、高校生の来場者も見ることができ、オープンキャンパスとはまた違った“茨城大学の雰囲気”を感じてもらえたと思う。

後日行った出店者のアンケートでも、「地域住民と交流できましたか？」の質問に対して出店者のほとんどが「できた」と回答している事から、今回のイベントは、大学と地域のよい交流の場にする事ができたと考える。

■エコ意識の向上

ワークショップでの体験を通して、端切れ布が立派なバッグになることやペットボ

トルのキャップがポリオワクチンになることを知って子どもがとても感動している様子を多々見ることができた。また、エコモザイクアートを学生センターに説明書きとともに展示するなど、エコ意識の向上を図ることができた。

■在学生への波及効果

フリーマーケットの出店者として、40店舗・約100人の学生に参加していただいた。「本当に楽しかった。」「地域住民との良い交流の機会になった。」との声を多くもらった。学生発信の新規イベントが誕生する土壌として、今年度「学生地域参画プロジェクト」

の認知度を高めることができたという点に関しても、私たちのイベントの意義があったと思う。

■ボランティアによる社会貢献

当日は、「モッタイナイ STATION」を運営本部に設置した。これはフリーマーケットにて売れ残った商品を出店者に持ち帰らせるのではなく、本部にて回収し、リサイクル業者を通じ換金を行うものである。結果、およそ8,400円を茨城新聞社を通じ社会福祉事業に募金することができ、社会貢献活動も行ったことを挙げる。



ペットボトルのキャップで描く
エコモザイクアート



大学生フリーマーケット



SATURN project by 森田屋による
エコバッグ作り